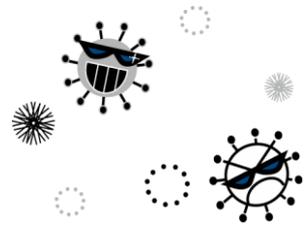


インフルエンザ予防接種について

◆ インフルエンザとは

インフルエンザウイルスに感染して起こります。

感染力が強く、症状が激しいことが特徴です。感染すると、発熱・頭痛・全身のだるさ・筋肉や関節の痛みなどが見られ、その後、鼻水・咳などの呼吸器症状が見られます。肺炎や気管支炎などを併発しやすく、短期間で多くの人に感染します。



◆ インフルエンザの予防

予防の基本は、流行前に予防接種を受けることです。

インフルエンザの主な感染経路は、咳・くしゃみなどから発生する飛沫による感染です。また、飛沫の付着物に触れた手や指を介して接触感染もおこります。インフルエンザの予防は、予防接種の他、インフルエンザの流行期に人混みを避けること、外に出る場合はマスクを着用すること、家に帰ったらまず手洗いやうがいを行うことです。手洗いは 30 秒程度かけて水と石けんで丁寧に行いましょう。手指消毒薬を使用しても構いません。



◆ 予防接種の有効性

インフルエンザ予防接種の有効性は世界的にも認められている最も有効な予防法です。予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約5か月間とされています。13歳未満では1回目の接種後2~4週の間隔をあけて2回目を接種します。接種間隔は4週間とする方が免疫の効果が高くなると言われています。毎年インフルエンザが流行する前の12月中旬までに接種を受けておくことが必要です。

◆ 予防接種の副反応

インフルエンザワクチンの接種によってインフルエンザを発症することはありません。予防接種を受けた後に、さまざまな副反応がみられることがあります。接種部位に赤みや腫れ、痛みがでるほか、微熱や寒気、頭痛、全身のだるさを感じることがありますが、2~3日で軽快します。まれに、ショックやじんましん、呼吸困難、けいれんなど重い症状をおこすこともあるので注意が必要です。これらの症状は、接種後の副反応によって起こる場合と、たまたま他の病気が重なって起こる場合があります。自分で判断せず、必ず主治医の診察を受けましょう。

◆ 予防接種を受ける前に

1. 一般的注意

インフルエンザの予防接種について、必要性や副反応についてよく理解しましょう。予診は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受けるご本人または保護者が責任を持って記入し、正しい情報を医師に伝えてください。

2. 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人（一般的に、体温が 37.5℃ 以上の場合）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ インフルエンザ予防接種で、アナフィラキシーショックを起こしたことがあることが明らかな人

※アナフィラキシーショック：通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のこと。顔が急にはれる、全身にひどいじんましんがでる、吐き気、嘔吐、息苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

- ④ インフルエンザ予防接種で、接種後 2 日以内に発熱のみられた人、及び全身性発疹等のアレルギーを疑う病状を呈したことがある人

※ 上記以外でも医師が接種不相当と判断した時は接種できません。

3. 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなければならない人

- ① 心臓病、じん臓病、肝臓病や血液疾患などの慢性疾患を持っている人
- ② けいれんを起こしたことがある人
- ③ 免疫不全といわれたことがある人
- ④ 間質性肺炎、気管支ぜんそく等の呼吸器疾患がある人
- ⑤ インフルエンザワクチンの成分や鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれたことがある人

◆ 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 接種後約 30 分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② インフルエンザワクチンの副反応の多くは、24 時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすことはやめましょう。
- ④ 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動は避けましょう。

＜お問い合わせ先＞

志賀町子育て支援課

☎ 32-9122